



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110560001057	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	神菌 健次		
授業担当教員名(科目責任者)	神菌 健次		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	神菌 健次		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマナー			
授業のねらい	授業のねらい: 知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習のデザイン能力を育てる。③ レポートや口頭によるプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を知る。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的で双方向的な学習形態をとるが、具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッション(教養セミナーに対する積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する (詳細は各クラス担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。そのため、知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、グループ作りに役立てることも狙いとしている		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			

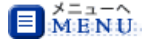


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

Login User 田中 伸彦 『全学教育(夜間主)』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110566005050	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(日本近代史_Modern Japanese History)		
編集担当教員	柴多 一雄		
授業担当教員名(科目責任者)	柴多 一雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柴多 一雄		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	shibatka@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	本館5階510室		
担当教員TEL	820-6346		
担当教員オフィスアワー	月曜日 17:30~19:30		
授業のねらい	日本近世史を素材に歴史に対する理解を深めることを目的とするが、特に近世日本の歴史を一般的な歴史としてではなく、九州という具体的な地域を通して考えていくことを目的とする。		
授業方法(学習指導法)	テキストは用いず、配付資料と板書を中心に講義形式で行う。		
授業到達目標	自分が属する身近な社会について、基礎的な歴史知識を獲得し、歴史的に考えることができるようになる。		
授業内容	兵農分離制・石高制・鎖国制によって示される日本近世社会の特質と九州という具体的な地域がもつ独自性が、どのように関係しながら近世九州の歴史が展開していったのか、さまざまな問題をとおして検討していく。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	豊田秀吉の九州平定	
	3	江戸幕府の成立と九州	
	4	鎖国と貿易都市長崎の成立	
	5	藩家臣団の構造	
	6	城下町と町人の生活	
	7	農村と農民の生活	
	8	在郷武士の社会と生活	
	9	街道と近世の旅	
	10	享保の飢饉	
	11	近世の貨幣制度	
	12	近世九州の産業	
	13	近世九州の文化	
	14	開港と貿易都市長崎の変貌	
	15	まとめ	
16	定期試験		
キーワード	九州 歴史 近世		

教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。 参考書は講義時間中に適宜紹介する。
成績評価の方法・基準等	小テスト50%、定期試験50%
受講要件(履修条件)	なし
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

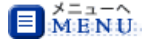


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

Login User 田中 伸彦 『全学教育(夜間主)』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。印刷



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「全学教育(夜間主)」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水6
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110566007050	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(日本の税制)		
編集担当教員	角田 享介		
授業担当教員名(科目責任者)	角田 享介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	角田 享介		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	kakuda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所318号室		
担当教員TEL	095-820-6331		
担当教員オフィスアワー	講義開始前および終了後。その他の時間については事前にEメールで予約を取ってください。		
授業のねらい	税金は我々国民の生活に密接に関わっており、どのような課税が行われるかについては国民の議論を通じて法で定められています。本講義では、日本の税制を学ぶことを通じて、経済・社会における法の意義・役割、そして法が制定される政治プロセスについて学習していきます。		
授業方法(学習指導法)	講義形式		
授業到達目標	日本の税制の現状、課題、検討されている改革の方向性について理解し、法と政治が自分の生活とどのようにかかわっているのかをイメージできるようになることを目的とします。		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクション	
	2	日本の税制の概要(1)	
	3	日本の税制の概要(2)	
	4	日本の税制の概要(3)	
	5	日本の税制の概要(4)	
	6	個人所得課税(1)	
	7	個人所得課税(2)	
	8	個人所得課税(3)	
	9	個人所得課税(4)	
	10	消費課税(1)	
	11	消費課税(2)	
	12	消費課税(3)	
	13	税制改正の動向(1)	
	14	税制改正の動向(2)	
	15	授業の総括	
16	定期試験		
キーワード	税金、税法、税制改正		

教科書・教材・参考書	特になし
成績評価の方法・基準等	定期試験(70%)、授業中に実施する小レポート(3回、各10%)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

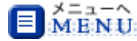


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

Login User 田中 伸彦 『全学教育(夜間主)』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「全学教育(夜間主)」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る

学期	前期	曜日・校時	金6
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110566009050	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(生活と経済)		
編集担当教員	内田 滋		
授業担当教員名(科目責任者)	内田 滋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	内田 滋		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主 総合経済コース		
担当教員Eメールアドレス	uchida-sAnagasaki-u.ac.jp (使用の際は Aを@に変える)		
担当教員研究室	経済学部本館6階606研究室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー	木曜日1740～1910		
授業のねらい	大学では、自ら考え学ぶことが重要であるため、今、何が問題なのかを自分自身で問いかけて考えるなど問題意識を持って大学生活を送ることが期待されている。このため本科目では、経済学部生向けの全学教育の社会科学系科目として、経済社会への関心と理解を深めるために、現代における生活経済の基礎的な諸問題について考察することをねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	本年度、本科目では身のまわりの生活を取り巻く現代社会の経済・経営面の基礎的な諸問題について具体例を取り上げて講義すると共に、レポート作成や論点の議論など授業参加者の取り組みなどもまじえながら、下記のようなトピックスを中心に学習する。		
授業到達目標	社会科学特に経済経営分野における基礎的な諸問題を自ら主体的に取り組むことができるようになるために、学生が関心を持つ特定の問題への有効な取り組みとしての個人ないしグループによる図書館の文献の調査やインターネットを使った官公庁などのホームページ等での資料調査、さらにはそれらを取りまとめてレポートなどに作成することができるようになることを目標とする。		
授業内容	回	内容	
	1	現代生活と経済問題	
	2	生活と地域社会	
	3	市場と取引活動	
	4	経済発展と生活経済	
	5	家計行動:所得と消費	
	6	貯蓄行動	
	7	生活設計	
	8	小括	
	9	不確実性と貯蓄	
	10	金融自由化とパーソナル・ファイナンス	
	11	経済社会のグローバル化と生活	
	12	経済構造変化	
	13	民営化問題	

	14	日本的経営の変化
	15	まとめ
	16	試験
キーワード	生活経済、生活設計、家計貯蓄、消費行動、グローバリゼーション	
教科書・教材・参考書	内田滋『現代生活経済とパーソナル・ファイナンス』ミネルヴァ書房	
成績評価の方法・基準等	期末試験(50%)、レポートの作成(25%)に加えて、授業参加を含む平常の学修成績(25%)により評価する。	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#) 田中 伸彦 『 全学教育(夜間主) 』タイムアウトまでおよそ1799秒です。 [印刷](#)

シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」

シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110566011050	科目番号	05660110
授業科目名	●日本国憲法(個人と国家)		
編集担当教員	井田 洋子		
授業担当教員名(科目責任者)	井田 洋子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井田 洋子		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室	[経]本館22講義室		
対象学生(クラス等)	夜間主		
担当教員Eメールアドレス	smile@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館506		
担当教員TEL	095-820-6401		
担当教員オフィスアワー	金曜日 17:00~17:30		
授業のねらい	現日本国憲法が掲げる普遍的原理としての基本的人権の尊重・国民主権・権力分立と、独自の価値としての戦争放棄及び象徴天皇制とを、それぞれ、具体的事例の検証や他国の憲法との比較を交えながら考察する。そうした作業を通して、現日本国憲法の存在意義のみならず、憲法そのものの存在意義を探究することを旨とする。		
授業方法(学習指導法)	講義形式。授業内容に関するレジュメ(毎回)及び関連する判例(適宜)を配布する。また、教員側の一方的授業にならないよう、定期的なレポート提出によって、学生側に意見を述べる機会を保障する。		
授業到達目標	受講生が、①憲法の存在を身近なものとして捉えること、②さまざまな憲法問題を自身の問題として考えること、③近い将来、政治的課題として挙がってくるであろう憲法改正論議に対して、主権者として主体的に関わろうとする意識を喚起すること、の3点を旨とする。		
授業内容	(概要) 最初に、憲法を学ぶ上で欠かせない、国家・基本的人権・国民主権・民主主義等の基本概念について、一通り説明を行う。その後、人権問題、国家権力や戦争放棄を巡る問題等、多岐に亘る憲法問題の中から、毎回ひとつずつテーマを選び、そのテーマに関して、国内外の具体的事例を参照しながら考察を深めていく。 16回目2月10日定期試験。		
	回	内容	
	1	10月7日 憲法とはなにか。 基本概念の説明—法治国家・基本的人権・国民主権・民主主義等	
	2	10月14日 日本国憲法の制定過程—前身としての明治憲法から日本国憲法制定へと至る過程	
	3	10月21日 象徴天皇制と国民主権	
	4	10月28日 法の下での平等1—国民主権と選挙制度	
	5	11月4日 法の下での平等2—男女平等	
	6	11月11日 信教の自由—個人の信教の自由と正教分離原則	
	7	11月18日 表現の自由1—表現の自由の意義及び限界	
	8	11月25日 表現の自由2—マス・メディアの表現の自由	
	9	12月2日 表現の自由3—プライバシーの権利その他	
	10	12月9日 人身の自由—刑事手続・裁判員制度	
	11	12月16日 社会権—生存権・環境権	

	12	1月6日 外国人の人権
	13	1月20日 国家権力の構造一特に立法権と行政権との関係を中心に
	14	1月27日 戦争放棄
	15	2月3日 まとめ—今後の展望
	16	2月10日 定期試験
キーワード	個人・国家・基本的人権・民主主義・立憲主義	
教科書・教材・参考書	教科書: 大隈義和・大江正昭編『憲法学へのいざない』青林書院。 参考書: 『セレクト六法』岩波書店、『コンパクト六法』有斐閣等、いずれかの六法書。	
成績評価の方法・基準等	レポート30%、定期試験70%の総合評価。なお、出席率が低い場合には、定期試験受験資格を失うものとする。	
受講要件(履修条件)	特になし。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	受講生には予習ならびに復習を行うことを強く望む。	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「全学教育(夜間主)」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110567001050	科目番号	05670010
授業科目名	●人間の科学(人間の一生)		
編集担当教員	松坂 誠應		
授業担当教員名(科目責任者)	松坂 誠應		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松坂 誠應, 田代 隆良, 中島 久良, 浦田 秀子, 田中 悟郎, 花田 裕子, 中尾 優子, 荒木 美幸, 鶴崎 俊哉, 岩永 竜一郎, 井口 茂, 楠葉 洋子, 岡田 純也, 大町 いづみ, 十枝 はるか		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室	[経]本館21講義室		
対象学生(クラス等)	経済夜間主コース学生		
担当教員Eメールアドレス	matsu_report@hotmail.com		
担当教員研究室	医学部保健学科3F		
担当教員TEL	095-819-7961		
担当教員オフィスアワー	月曜日9:00~20:00		
授業のねらい	発達・成長、加齢・老化といった人間の一生を疾病や特徴的な状態を通して理解する。		
授業方法(学習指導法)	誕生から死までの各ライフサイクルの特徴について、その専門分野の保健学系教員がオムニバス形式で講義する。		
授業到達目標	誕生から死までの各ライフサイクルにおける人間の心と体の健康を理解する。		
授業内容	人間は、生まれながらの素因に加えて、家族や社会等の環境因子の影響を受け成長・発達していく。さらに、同様な因子や生活習慣(これ自体もこれらの影響で作られるが)の影響を受け、加齢現象(老化)を起こし死に至る。感情の動物である人間では、その時々のある出来事が心にも影響し、豊かになることもあれば、心の病を引き起こすこともある。このような各ライフサイクルにおける人間(心と体)と環境の相互作用と健康を学習する。		
	回	内容	
	1	4/7 松坂誠應教授:授業のガイダンス	
	2	4/14 荒木美幸准教授:胎児の能力 ~妊婦と胎児の相互作用の視点から	
	3	4/21 中尾優子教授:母と児のきずな ~育児の視点から	
	4	4/28 鶴崎俊哉准教授:赤ちゃんはどうやって発達するのか	
	5	5/12 十枝はるか助教:幼児の発達と子育て支援	
	6	5/19 岩永竜一郎准教授:学齢児の発達と課題(発達障害と心の問題)	
	7	5/26 花田裕子教授:思春期・青年期の心理社会的発達とメンタルヘルス	
	8	6/2 岡田純也講師:成人の生活と健康-青年期-(禁煙は健康の源)	
	9	6/9 中島久良教授:成熟期女性のイベント ~妊娠から分娩まで~	
	10	6/16 楠葉洋子准教授:成人の生活と健康-壮年期-(サラリーマンの健康術)	
	11	6/23 田代隆良教授:生活習慣病~このまま放っておくと大変なことになりますよ!	
	12	6/30 田中悟郎教授:障害と偏見差別(精神障害を通して)	
	13	7/7 浦田秀子教授:成人の生活と健康-向老期-(幸せな老年期への準備)	
	14	7/14 井口茂准教授:健やかな老後のために(高齢者の特徴と介護予防の取り組み)	
	15	7/21 大町いづみ講師:死と豊かな人生を考える	

	16
キーワード	人間 ライフサイクル 健康 発達 老化
教科書・教材・参考書	授業計画に沿ったプリント資料を配布する。
成績評価の方法・基準等	毎回の講義に関するレポート(80%)、課題レポート(第15回時に示す、20%)で判定する。
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ	教養科目:大学生として「人間」と「健康」についての知識を身につける。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「全学教育(夜間主)」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110567003050	科目番号	05670030
授業科目名	●生体の機能(クスリとの賢い付き合い方)		
編集担当教員	中嶋 幹郎		
授業担当教員名(科目責任者)	中嶋 幹郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中嶋 幹郎		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部		
担当教員Eメールアドレス	mikirou@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	薬学部2階 病院薬学研究室		
担当教員TEL	819-2459		
担当教員オフィスアワー	月～金9:00～18:00 ただし事前にメール等で予約を取ること		
授業のねらい	薬学部には調剤学という学問・研究領域がある。これは、一般的に医薬品(クスリ)を実際に生体に適用する場合に考慮すべき情報に関する問題を取り扱う分野である。しかし、調剤学はいわゆる「クスリの学問」でもあり、クスリに関する様々な分野の研究領域を包括する場合もある。したがって、調剤学は「薬学部」独自の学問・研究領域と位置付けられている。また、調剤学は医療職である薬剤師の専門性の基盤となっている学問・研究領域でもある。本授業では、毎回身近なクスリを取り上げ、生体との関係からわかりやすく解説する。このことにより、大学生の皆さんに知ってもらいたいクスリや健康・衛生管理に関する正しい知識を身につけてもらうことがねらいである。		
授業方法(学習指導法)	教科書は用いず授業計画にそってプリント資料で講義する。		
授業到達目標	クスリや健康・衛生管理に関する正しい知識を理解し、説明できる。		
授業内容	<p>授業内容(概要):毎回身近なクスリや健康問題を取り上げ、プリント資料を用いて生体との関係から解説を行う。授業毎に理解した内容を整理して課題レポートとして提出することで、大学生として正しく知ってもらいたいクスリや健康・衛生管理に関する知識を身につけさせようとするものである。</p> <p>第1回 クスリとは?を解説し、化学物質としてのクスリと生体との関係を説明できるようにする。 第2回 クスリの種類、作用発現、情報について解説し、クスリの種類や情報を整理して説明できるようにする。 第3回 クスリの使い方と主作用・副作用との関係について解説し、クスリの使用目的と適用法との関係を説明できるようにする。 第4回 クスリの剤形について解説し、クスリの使用目的と適用法との関係を詳しく理解し、説明できるようにする。 第5回 クスリの生体での動き方について解説し、クスリ作用発現と生体機能との関係を説明できるようにする。 第6回 クスリ作用発現に影響を及ぼす要因(クスリの飲み合せ等)について解説し、クスリ作用発現と生体機能との関係を詳しく理解し、説明できるようにする。 第7回 クスリ情報文章の読み方を解説し、クスリ情報文章の基礎を読解できるようにする。 第8回 妊娠とクスリとの関係を解説し、医療や健康・衛生管理に関する知識を正しく理解し、説明できるようにする。 第9回 不眠とクスリとの関係を解説し、医療や健康・衛生管理に関する知識を正しく理解し、説明できるようにする。 第10回 嗜好品とクスリとの関係を解説し、医療や健康・衛生管理に関する知識を正しく理解し、説明できるようにする。 第11回 クスリの乱用問題について解説し、医療や健康・衛生管理に関する知識を正しく理解し、説明できるようにする。 第12回 クスリの有害作用について解説し、医療や健康・衛生管理に関する知識を正しく理解し、説明できるようにする。 第13回 疾病とクスリについて解説し、薬物治療の有用性や危険性を正しく理解し、説明できるようにする。(1) 第14回 疾病とクスリについて解説し、薬物治療の有用性や危険性を正しく理解し、説明できるようにする。(2) 第15回 各自のテーマにおける課題レポートをまとめる。</p>		
キーワード	クスリ、情報、生命、医療、治療、健康、衛生、薬学。		

教科書・教材・参考書	教科書は用いず授業計画にそって配布するプリント資料を用いる。
成績評価の方法・基準等	毎授業時の課題レポートに対する積極的な取組状況50%、期末時の各自のテーマにおける課題レポートに対する積極的な取組状況50%。 授業内容を把握した上で、自分の意見や感想を多く述べることを評価の基準とする。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	一般教育。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る

学期	前期	曜日・校時	水7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110568001050	科目番号	05680010
授業科目名	●数理学(経済数学の基礎)		
編集担当教員	村田 嘉弘		
授業担当教員名(科目責任者)	村田 嘉弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 嘉弘		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	1年,2年,3年,4年		
担当教員Eメールアドレス	ymurata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館5階 507		
担当教員TEL	095-820-6343		
担当教員オフィスアワー	講義終了後1時間		
授業のねらい	経済学や経営学で用いられる数学のうち、微分法に関する部分について基本事項を解説する。		
授業方法(学習指導法)	教科書と配布プリントを利用して講義形式で行う。 講義中に適宜、問題演習を行う。		
授業到達目標	基本的な関数の性質、1変数関数の微分法とその応用、2変数関数の微分法について理解し、教科書の章末練習問題レベルの問題が解けるようになる。		
授業内容	回	内容	
	1	1次関数	
	2	2次関数とべき関数	
	3	分数関数、根号と指数法則	
	4	指数関数	
	5	対数関数	
	6	1変数関数の微分法①(定義)	
	7	1変数関数の微分法②(基本的な公式)	
	8	1変数関数の微分法③(指数関数と対数関数の導関数)	
	9	1変数関数の微分法④(合成関数の微分法)	
	10	中間まとめ(中間試験)	
	11	曲線のグラフ①(増減と極値)	
	12	曲線のグラフ②(凹凸と変曲点)	
	13	曲線のグラフ③(漸近線)	
	14	2変数の関数の微分法①(偏微分)	
	15	2変数の関数の微分法②(全微分)	
	16		
キーワード	経済数学 関数 微分法		

教科書・教材・参考書	竹之内修『経済・経営系 数学概説 第2版』新世社(新経済学ライブラリ 別巻9)
成績評価の方法・基準等	中間試験(50%)と期末試験(50%)による。
受講要件(履修条件)	特になし。
本科目の位置づけ	全学教育科目の自然科学科目中の数理科学(数学)
学習・教育目標	「数学」では自然、生活、社会などにおける量や形の関係、変化などを記述し、その法則を調べ、検証し、利用していくこと、あるいはすでに実社会において利用されている実態などを学ぶ。それによって高校までの数学の授業で培って来た知識や能力を確実なものにしていくとともに、さらに論理的思考力を鍛え、数量に対する感性を磨き、もって幅広い人間性、豊かな人生、社会への高い貢献を期す。 (全学教育の概要より)
備考(URL)	
備考(準備学習等)	高校で使用した教科書・参考書を見直すとよい。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110568007050	科目番号	05680070
授業科目名	●生物の科学(プランクトンと海洋環境)		
編集担当教員	鈴木 利一		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 利一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 利一		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	tsuzuki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	水産学部 本館 2F		
担当教員TEL	095-819-2821		
担当教員オフィサー	授業の前後		
授業のねらい	プランクトン(浮游生物)は海洋水柱中に普遍的に存在する。各々の個体は極めて小さいが、その現存量は莫大であり、海洋の環境を考える際には決して無視することができない生態群である。本講義では、このプランクトンを主体、それを取り囲むものすべてを海洋環境ととらえ、両者の相互作用について、理解し考察することを目的とする。		
授業方法(学習指導法)	浮游生物の生態に関する、基本的な概念および研究成果を出来るだけわかりやすく紹介する。		
授業到達目標	浮游生物の生き様を通して、海洋の環境を理解するセンスを身につける。		
授業内容	<p>以下の順番および内容で授業を進めていく予定であるが、受講学生の専門によっては、その分野に対応した内容も取り上げる可能性があります。</p> <p>第1回 浮游生物と水(水圏の環境と陸上の環境)</p> <p>第2回 浮游生物と塩分(海水の環境と陸水の環境)</p> <p>第3・4回 独立栄養浮游生物と海洋環境(植物プランクトン、光合成、基礎生産)</p> <p>第5・6回 従属栄養浮游生物と海洋環境(動物プランクトン、摂餌、呼吸、運動)</p> <p>第7回 海洋食物連鎖と海洋環境(食う食われるの関係、栄養段階、転送効率)</p> <p>第8回 浮游生物の多様性と海洋環境(種多様性、多様度指数)</p> <p>第9回 海洋汚染と浮游生物(排水、生物濃縮)</p> <p>第10回 富栄養化と浮游生物(栄養塩、有機物生産、分解)</p> <p>第11・12回 赤潮・青潮(藻類増殖、負酸素化、硫黄循環)</p> <p>第13・14回 浮游生物と地球・海洋環境(物質循環、気候変動)</p> <p>第15回 まとめ・全授業の総括</p> <p>第16回 試験</p>		
キーワード	浮游生物、海洋環境		

教科書・教材・参考書	浮游生物学(Planktology, Planktonology)、海洋生物学(Marine Biology)、生物海洋学(Biological Oceanography)、海洋生態学(Marine Ecology)等のキーワードがついたタイトルの、一般的な教科書が参考書となる。参考文献は適宜紹介するが、図書館等で自主的に渉猟するように。
成績評価の方法・基準等	最終試験で評価(100%)を行う。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



メニューへ



ログアウト



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

Login User 田中 伸彦 『全学教育(夜間主)』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「全学教育(夜間主)」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	火6
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110569020850	科目番号	05690208
授業科目名	●世界各地の文化と経済		
編集担当教員	青山 繁		
授業担当教員名(科目責任者)	青山 繁		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	青山 繁		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部生		
担当教員Eメールアドレス	aoyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館602		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	火曜日17:00-18:00		
授業のねらい	世界各地の文化がその地域の経済とどのように関係しているかを理解する。		
授業方法(学習指導法)	プリントを用いて世界各地の文化と経済について説明する。		
授業到達目標	他国の文化と経済に興味を持つこと。		
授業内容	プリントを用いて各地域の文化と経済を見ていく。とりわけ、文化が経済発展とどのようにかかわっているかを考察する。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	文化の多様性	
	3	西欧・北アメリカの文化と経済	
	4	ラテンヨーロッパの文化と経済	
	5	東欧の文化と経済	
	6	ロシアの文化と経済	
	7	北アフリカ・中東の文化と経済	
	8	インドの文化と経済	
	9	ラテンアメリカの文化と経済	
	10	中国の文化と経済	
	11	韓国の文化と経済	
	12	日本の文化と経済	
	13	各地域の比較	
	14	全体の総括(1)	
	15	全体の総括(2)	
16	定期試験		
キーワード	文化、制度、経済発展		

教科書・教材・参考書	プリントを配付。
成績評価の方法・基準等	定期試験による。
受講要件(履修条件)	特になし。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「全学教育(夜間主)」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火7																				
開講期間																							
必修選択		単位数																					
時間割コード	20110590001050	科目番号	05900010																				
授業科目名	●英語コミュニケーション																						
編集担当教員	吉村 宗司																						
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 宗司																						
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 宗司																						
科目分類																							
対象年次		講義形態	演習科目																				
教室	[経]本館MS1																						
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース																						
担当教員Eメールアドレス	yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp																						
担当教員研究室	非常勤講師控室																						
担当教員TEL																							
担当教員オフィスアワー	授業の前後(19:30~19:40)																						
授業のねらい	授業のねらい:対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに依つて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかつた学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語)-必要最低限の英語(米語)-を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。																						
授業方法(学習指導法)	まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、LL機器をフルに駆使して英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。																						
授業到達目標	本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。																						
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/, /l/と/l/の発音</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ音化</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連結しない場合の/l/, /h/の脱落、半母音/j/, /n+/t/と/n+/d/による音変化</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音/j/に絡む音変化①)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか)	2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について	3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/, /l/と/l/の発音	4	子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説	5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック	6	『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ音化	7	連結しない場合の/l/, /h/の脱落、半母音/j/, /n+/t/と/n+/d/による音変化	8	『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン	9	『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音/j/に絡む音変化①)
回	内容																						
1	オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか)																						
2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について																						
3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/, /l/と/l/の発音																						
4	子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説																						
5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック																						
6	『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ音化																						
7	連結しない場合の/l/, /h/の脱落、半母音/j/, /n+/t/と/n+/d/による音変化																						
8	『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン																						
9	『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音/j/に絡む音変化①)																						

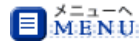
	10 『同化』を聞き取るパターン(2)(半母音/j/に絡む音変化②)、『調音点が近い子音の連続』
	11 『同化』を聞き取るパターン(3)(/h/の後続音への影響)、On an Airplane(1)
	12 On an Airplane(2)／VTR視聴／ニュースを聞き取る
	13 At an Airport(1)／洋楽を聞き取る
	14 At an Airport(2)／Taking a Taxi(1)／洋楽を聞き取る
	15 Taking a Taxi(2)／洋楽を聞き取る／まとめ
	16 定期試験 ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。
キーワード	音法
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング-聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR教材)
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(受講態度やトレーニングの状況20%)等の総合判定によって評価を行なう。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#) 田中 伸彦 『全学教育(夜間主)』タイムアウトまでおよそ1799秒です。 [印刷](#)

シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。

学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110560001058	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	柴多 一雄		
授業担当教員名(科目責任者)	柴多 一雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柴多 一雄		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	授業のねらい: 知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習のデザイン能力を育てる。③ レポートや口頭によるプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を知る。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的で双方向的な学習形態をとるが、具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッション(教養セミナーに対する積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する (詳細は各クラス担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。そのため、知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、グループ作りに役立てることも狙いとしている		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「全学教育(夜間主)」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110590001051	科目番号	05900010
授業科目名	●英語コミュニケーション		
編集担当教員	吉村 宗司		
授業担当教員名(科目責任者)	吉村 宗司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉村 宗司		
科目分類			
対象年次		講義形態	演習科目
教室	[経]本館MS1		
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業の前後(19:30~19:40)		
授業のねらい	授業のねらい:対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに依つて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかつた学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語)-必要最低限の英語(米語)-を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。		
授業方法(学習指導法)	まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、LL機器をフルに駆使して英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。		
授業到達目標	本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。		
授業内容	授業内容(概要) 前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか)	
	2	『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』—分析結果の報告と対策法について	
	3	プレテスト、つながる音とカタカナ英語、近似カナ表記、母音、半母音/j/, /w/, /r/, /l/の発音	
	4	子音、調音形式、調音点、有声音と無声音、閉鎖音についての解説	
	5	子音の分類表を基にした音素に関する基礎知識の確認、単語レベルの発音クリニック	
	6	『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則)、/t/, /d/, /g/の脱落、/t/, /d/のラ音化	
	7	連結しない場合の/l/, /h/の脱落、半母音/j/, /n+/t/と/n+/d/による音変化	
	8	『閉鎖音の連続による脱落』、『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン	
9	『同化』を聞き取るパターン(1)(半母音/j/に絡む音変化①)		

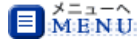
	10 『同化』を聞き取るパターン(2)(半母音/j/に絡む音変化②)、『調音点が近い子音の連続』
	11 『同化』を聞き取るパターン(3)(/h/の後続音への影響)、On an Airplane(1)
	12 On an Airplane(2)／VTR視聴／ニュースを聞き取る
	13 At an Airport(1)／洋楽を聞き取る
	14 At an Airport(2)／Taking a Taxi(1)／洋楽を聞き取る
	15 Taking a Taxi(2)／洋楽を聞き取る／まとめ
	16 定期試験 ※毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。
キーワード	音法
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング-聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR教材)
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(受講態度やトレーニングの状況20%)等の総合判定によって評価を行なう。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#) 田中 伸彦 『全学教育(夜間主)』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	前期	曜日・校時	火7																																
開講期間																																			
必修選択		単位数																																	
時間割コード	20110590003050	科目番号	05900030																																
授業科目名	●英語コミュニケーションⅡ																																		
編集担当教員	白水 桂子																																		
授業担当教員名(科目責任者)	白水 桂子																																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	白水 桂子																																		
科目分類																																			
対象年次		講義形態	演習科目																																
教室	[経]新館101講義室																																		
対象学生(クラス等)	経済学部:夜間主コース																																		
担当教員Eメールアドレス	kuwata@nagasaki-u.ac.jp																																		
担当教員研究室	東南アジア研究所2階																																		
担当教員TEL																																			
担当教員オフィスアワー	授業直後またはEメールで受け付けます。																																		
授業のねらい	TOEIC形式の問題を使って表現や文法事項の復習をします。またリスニングの練習も行い、英語の基礎力向上を目指します。																																		
授業方法(学習指導法)	毎回、ユニットを一つずつ進めるので、テキストの練習問題を解答して来てください。授業では、解答の確認と語彙や文法事項の復習や読む練習等も行います。																																		
授業到達目標	それぞれのユニットのトピックに係わる会話やTOEIC形式の問題演習によって、英語の基礎力を高めることを目標にします。																																		
授業内容	<p>予習で指示した箇所の解答を指名して確認し、語彙や文法事項の解説をします。また、期末試験以外に単語のテスト(回数未定)や復習テストも予定しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 小テスト</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 Eating</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2 Leisure</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3 Sports</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 4 Shopping</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 5 Campus Life</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 6 Travel</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>復習テスト(予定)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 7 Health</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 8 Work</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 9 Weather</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 10 Cooking</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 11 Parties</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 12 Movies</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>文法事項の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション 小テスト	2	Unit 1 Eating	3	Unit 2 Leisure	4	Unit 3 Sports	5	Unit 4 Shopping	6	Unit 5 Campus Life	7	Unit 6 Travel	8	復習テスト(予定)	9	Unit 7 Health	10	Unit 8 Work	11	Unit 9 Weather	12	Unit 10 Cooking	13	Unit 11 Parties	14	Unit 12 Movies	15	文法事項の復習
	回	内容																																	
	1	オリエンテーション 小テスト																																	
	2	Unit 1 Eating																																	
	3	Unit 2 Leisure																																	
	4	Unit 3 Sports																																	
	5	Unit 4 Shopping																																	
	6	Unit 5 Campus Life																																	
	7	Unit 6 Travel																																	
	8	復習テスト(予定)																																	
	9	Unit 7 Health																																	
	10	Unit 8 Work																																	
	11	Unit 9 Weather																																	
	12	Unit 10 Cooking																																	
	13	Unit 11 Parties																																	
	14	Unit 12 Movies																																	
15	文法事項の復習																																		

	16 授業の総括(試験)
キーワード	
教科書・教材・参考書	安浪・Lavin (著)『TOEICテスト はじめの一步』朝日出版社
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況 40% 期末試験(復習テスト等を含む) 60% によって総合的に評価します。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「全学教育(夜間主)」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110590003051	科目番号	05900030
授業科目名	●英語コミュニケーションⅡ		
編集担当教員	丸山 真純		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 真純		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 真純		
科目分類			
対象年次		講義形態	演習科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	masazumi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所312		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木 12:00-14:30		
授業のねらい	コミュニケーションのための英語運用力を文法面から涵養する。		
授業方法(学習指導法)	担当教員による解説のほか、Pair-Work Group-Workなど、コミュニケーション活動を重視する		
授業到達目標	基本的な動詞に関する文法とそのための語彙の理解。		
	教科書に基づき、以下の事柄を学習し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。		
	回	内容	
	1	Introduction/Evaluation Test	
	2	Chapter 1:「現在」 現在形 現在進行形 現在完了形	
	3	Chapter 2:「過去」 過去形 過去進行形 過去完了形	
	4	Chapter 3:「未来」 will & be going to will + 進行形 will + 完了形	
	5	Quiz 1 Chapter 4: 動詞・助動詞 他動詞と自動詞 助動詞 使役動詞	
	6	Chapter 5: 話し手の態度を語る(1) 実現可能性: can 強制力と妨害力の不在: may & must 意志と当為: will & shall	
		Chapter 6: 話し手の態度を語る(2) would & could	

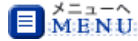
授業内容	7	should & might 態度表明型の副詞・形容詞
	8	Chapter 7: 話し手の態度を語る(3) 能力と可能性、意志と予定 過去の習性: used to & would 義務と必要性: must / have to / need to
	9	Quiz 2 Chapter 8: 能動態と受動態 視点と態 受動態の特徴 過去分詞を伴った感情表現
	10	Chapter 9: 形が同じなら共通の働き HAVEの構文ネットワーク BEの構文ネットワーク INGの構文ネットワーク
	11	Quiz 3 Chapter 10: 動詞の共演者と構文タイプ(1) 対象・状態を語る 2つの対象を語る 対象の状態変化(維持)を語る
	12	Chapter 11: 動詞の共演者と構文タイプ(2) 動作を語る 対象の動作を語る まとまった内容を語る
	13	Chapter 12: 形容詞を中心とした構文 何かをすることに対する話し手の判断・評価 感情形容詞と前置詞の選択 節の内容に対する話し手の判断・評価
	14	Chapter 13: 動詞の文法の総括 テンス・アスペクトと時間の関係 テンス・アスペクトの公式化 受動態とテンス・アスペクト
	15	Catch-up & Review
	16	Quiz 4
キーワード		
教科書・教材・参考書		『文法がわかれば英語は分かる!』 田中茂範 NHK出版
成績評価の方法・基準等		①Quizzes (60%); ②Assignments (25%) ③Class Participationコミュニケーション活動への参加など(15%)から評価します。(初回に詳しく説明します)
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		基本的な事柄を英語で表現できること/しよとすることを目標とする
備考(URL)		
備考(準備学習等)		科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。 辞書は必ず毎回持参すること。





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#) 田中 伸彦 『全学教育(夜間主)』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110590005050	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ		
編集担当教員	白水 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	白水 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	白水 桂子		
科目分類			
対象年次		講義形態	演習科目
教室	[経]新館201講義室		
対象学生(クラス等)	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	kuwata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所2階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業直後またはメールで受け付けます。		
授業のねらい	日本語と英語の発想の違いを学びながら、英語の単語やフレーズの使い方を習得します。		
授業方法(学習指導法)	単語やフレーズの使い方を確認しながら、日常会話の英作文問題を練習していきます。		
授業到達目標	コミュニケーションに役立つ英語表現に慣れ、使えるようになること。		
授業内容	予習箇所を指示するので、会話作文の問題を解答して来てください。授業では日本語と英語の発想の違いを確認しながら解答し、その他の関連する表現も見っていきます。割り当ても予定しています。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション Chapter 1 動詞	
	2	Chapter 1 動詞	
	3	Chapter 1 動詞	
	4	Chapter 2 句動詞	
	5	Chapter 2 句動詞	
	6	Chapter 2 句動詞	
	7	小テスト(予定) Chapter 3 イディオム	
	8	Chapter 3 イディオム	
	9	Chapter 3 イディオム	
	10	Chapter 4 形容詞	
	11	Chapter 4 形容詞	
	12	Chapter 4 形容詞	
	13	Chapter 5 前置詞	
	14	Chapter 5 前置詞	
	15	Chapter 5 前置詞	
16	授業の総括(試験)		

キーワード	
教科書・教材・参考書	井内、他(著)「英語感覚の会話作文」(朝日出版社)
成績評価の方法・基準等	期末試験・小テスト 50% 授業への参加状況(課題等を含む)50% 以上によって総合的に評価します。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

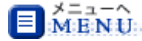


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

Login User 田中 伸彦 『 全学教育(夜間主) 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「全学教育(夜間主)」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	前期	曜日・校時	木6
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110590005051	科目番号	05900050
授業科目名	●英語コミュニケーションⅢ		
編集担当教員	丸山 真純		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 真純		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 真純		
科目分類			
対象年次		講義形態	演習科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	masazumi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所312		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木 12:00-14:30		
授業のねらい	コミュニケーションのための英語運用力を文法面を無視することなく涵養する。		
授業方法(学習指導法)	担当教員による解説のほか、Pair-Work Group-Workなど、コミュニケーション活動を重視する		
授業到達目標	基本的な音声面の聞き取り、それに応じた発話を学ぶこと。また、そのための語彙や構文の理解。		
	教科書に基づき、以下の事柄を学習し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。		
	回	内容	
	1	Introduction/Proficiency Test	
	2	UNIT 5 Going places (Travel; vacations; plans) SPEAKING Describing vacation plans; giving travel advice; planning a vacation	
	3	GRAMMAR Future with be going to and will; modals for necessity and suggestion: must, need to, (don't) have to, better, ought to, should (not)	
	4	LISTENING Linked sounds with /w/ and /y/ Listening to travel advice Self-study: Listening to people discuss vacation plans	
	5	UNIT 6 OK. No problem! (Complaints; household chores; requests; excuses; apologies) Quiz 1 SPEAKING Making requests; accepting and refusing requests	
	6	GRAMMAR Two-part verbs; will for responding to requests; requests with modals and Would you mind...?	
	7	LISTENING Stress in two-part verbs Listening to results of a survey Self-study: Listening to people make requests	

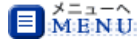
授業内容	8	UNIT 7 What's this for? (Technology; instructions) Quiz 2 SPEAKING Describing technology; giving instructions; giving suggestions
	9	GRAMMAR Infinitives and gerunds for uses and purposes; imperatives and infinitives for giving suggestions
	10	LISTENING Syllable stress Listening to a radio program; listening to people give advice Self-study: Listening to people discuss computers
	11	UNIT 8 Let's celebrate! (Holidays; festivals; customs; celebrations) Quiz 3 SPEAKING Describing holidays, festivals, customs, and special events
	12	GRAMMAR Relative clauses of time; adverbial clauses of time: when, after, before
	13	LISTENING Stress and rhythm Listening to a description of Carnaval Self-study: Listening to someone talk about Halloween
	14	Catch-Up
	15	Review
	16	Quiz 4
	キーワード	
教科書・教材・参考書	Interchange 2A, Cambridge University Press	
成績評価の方法・基準等	① Quizzes (60%); ② Assignments (25%) ③ Class Participation コミュニケーション活動への参加など(15%)から評価します。(初回に詳しく説明します)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	基本的な事柄を英語で表現できること/しよとすることを目標とする	
備考(URL)		
備考(準備学習等)	科目の性格上、全授業の1/3以上の欠席者には、単位が与えられない。 辞書は必ず毎回持参すること。	





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



メニューへ



ログアウト



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#) 田中 伸彦 『全学教育(夜間主)』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	前期	曜日・校時	水6
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110590009050	科目番号	05900090
授業科目名	●総合英語 I		
編集担当教員	前川 智子		
授業担当教員名(科目責任者)	前川 智子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	前川 智子		
科目分類			
対象年次		講義形態	演習科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	t-mae@asca-iso.jp		
担当教員研究室	非常勤講師控え室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業中及び授業の前後10分間		
授業のねらい	英語の読解力、音読力を高め、語彙を増やすことがねらいである。		
授業方法(学習指導法)	様々の人々が書いたエッセイを読み、内容を深く理解する。内容把握問題を解くと同時に、本文のoverlapping, shadowingを通して、英語らしい読み方を習得する。派生語を中心に語彙力を養成する。各章の総まとめとして、空所補充形式のリスニング問題を行い、リスニング力と共に語彙力を確認する。		
授業到達目標	英語エッセイの内容を理解し、英語で的確に答えることができる。派生語を理解し、語彙を増やす。英語らしい発音・イントネーションで英文を読むことができる。		
授業内容	回	内容	
	1	第1回 Orientation 教科書販売 / 疑問文の作り方、英語構成法	
	2	第2回 Ch.1: September 11 (語彙・読解問題、音読、リスニング)	
	3	第3回 Ch.2: Beyond "September 11" (語彙・読解問題、音読、リスニング)	
	4	第4回 Ch.3: The Stone Walk (語彙・読解問題、音読、リスニング) /	
	5	第5回 Ch.4: Students' Power in the Stone Walk (語彙・読解問題、音読、リスニング)	
	6	第6回 Review / 疑問文の作り方	
	7	第7回 中間テスト / Review	
	8	第8回 Ch. 5: Japan and My Family (語彙・読解問題、音読、リスニング)	
	9	第9回 Ch.6: The Japan that I love (語彙・読解問題、音読、リスニング)	
	10	第10回 Ch.7: Paper Sculpture (語彙・読解問題、音読、リスニング)	
	11	第11回 Ch.8: The tour of the exhibition (語彙・読解問題、音読、リスニング)	
	12	第12回 Ch.9: The Art of Memory (語彙・読解問題、音読、リスニング)	
	13	第13回 Ch.10: Statues for Peace (語彙・読解問題、音読、リスニング)	
	14	第14回 Ch.11: Prayer for Peace (語彙・読解問題、音読、リスニング)	
	15	第15回 Review	
	16	第16回 期末テスト	

キーワード	語彙力、読解力、音読
教科書・教材・参考書	「Peace Talk」(開文社出版、前川智子編著、Andrea LeBlanc 外著)
成績評価の方法・基準等	期末テスト(40%) 中間テスト(20%) 毎週の課題(25%)提出課題は期限厳守のこと その他の宿題・授業中の活動(15%)
受講要件(履修条件)	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。正当な理由があっても、欠席が4回となると定期試験を受ける資格を失う。30分以上の遅刻・早退は原則として欠席扱いとする。
本科目の位置づけ	読解力、語彙力、英語らしい発音・イントネーションが向上する。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	毎回宿題(教科書の練習問題)を出すので、それを行った上で授業に臨むこと。 上記宿題は教科書のコピーを授業の初めに提出してもらうので、授業前に準備しておくこと。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



メニューへ



ログアウト



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

Login User 田中 伸彦 『全学教育(夜間主)』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	水7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110590011050	科目番号	05900110
授業科目名	●総合英語Ⅱ		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類			
対象年次		講義形態	演習科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー	授業終了時		
授業のねらい	The New York TimesからThe Japan Timesに至る英文による新聞記事を読み、英文読解力を養う。Reading、Listening、Vocabularyの総合的実力向上を目指す。		
授業方法(学習指導法)	Before you read, Words and Phrases, Summaryにより、本文を読む前の内容予想をしながら読解力を深める。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
授業内容	各課ごとに事前のQuestions/Words and Phrases/Summary/Reading/ Exercises(Multiple Choice・True or False・Vocabulary)の順で行う。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション:授業の進め方・評価の仕方の説明・授業アンケート&クイズ	
	2	Library in a Pocket 読書はネットで	
	3	Young shoppers, historic roots push 'manga' into Europe mainstream ヨーロッパで「マンガ」大ブーム	
	4	Black or biracial? Census forces some to choose 黒人か白人か? 国勢調査が選択を迫る	
	5	Talks to Address Trade in Tuna and Ivory マグロ取引と象牙取引	
	6	The price of being born Muslim イスラム教徒に生まれて	
	7	For the euro, breaking up is hard to do ヨーロッパの金融危機	
	8	中間としてのまとめ(テストを含む)	
	9	Lib Dems mull alliance with Tories 英国自民党、保守党と連立を考慮	
	10	Dubai may drag on Gulf region あのドバイが地域経済の足を引っ張る?	
	Along Mekong, short on water and trust		

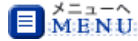
	11	メコン川流域 水不足と相互不信
	12	In Israel, Russia is everywhere イスラエルはどこもロシアだらけ
	13	Twitter's heady rise in Venezuela has Cavez in a spin ツイッターの普及で大統領の人気急落
	14	後半のまとめ(その1)
	15	後半のまとめ(その2)
	16	全体のまとめ(定期試験を含む)
キーワード	Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary	
教科書・教材・参考書	The Half-Edition of English through the News Media 2011 (Asahi Press)	
成績評価の方法・基準等	○定期試験50%、中間試験30%、小試験10%、授業への姿勢(予習・発言・質問)10%	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

Login User 田中 伸彦 『 全学教育(夜間主) 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「全学教育(夜間主)」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110590013050	科目番号	05900130
授業科目名	●総合英語Ⅲ		
編集担当教員	山崎 有介		
授業担当教員名(科目責任者)	山崎 有介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山崎 有介		
科目分類			
対象年次		講義形態	演習科目
教室	[経]本館22講義室		
対象学生(クラス等)	夜間主		
担当教員Eメールアドレス	pro-1223@i-next.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスパワー	授業終了後		
授業のねらい	単に教員から学ぶだけでなく、積極的にノートをとることによって予習や復習が可能になり、授業内容が確認でき、真の英語力が向上し、試験対策にも役立つと期待されます。		
授業方法(学習指導法)	毎回短い英文を読み、語彙・語法を指導する。また、Exerciseで応用に挑戦し、自ら英文を書けるようにする。		
授業到達目標	無理なく通常の英文が読み、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、英語における表現力を豊かにしたい。TOEICや英検などの資格試験のスキルアップにも役立てたい。		
授業内容	毎回1つのChapterを進む。Taking Notes、Comprehension & Vocabulary、Grammar & Compositionを行う。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション:授業の進め方・評価の仕方の説明・授業アンケート&クイズ	
	2	If Great Buddha stood up? 文法のテーマ:動詞の語法(1)	
	3	The development of mobile phones 文法のテーマ:動詞の語法(2)	
	4	The Internet in globalization 文法のテーマ:時制	
	5	The history of curry 文法のテーマ:助動詞	
	6	Dogs as a companion 文法のテーマ:不定詞	
	7	Global warming 文法のテーマ:動名詞	
	8	中間としてのまとめ(テストを含む)	
	9	St. Valentine's Day 文法のテーマ:分詞	
10	Republic of Seychelles		

	文法のテーマ:冠詞
11	The role of sports 文法のテーマ:前置詞
12	Ig Nobel Prize 文法のテーマ:受動態
13	What makes a diet a success? 文法のテーマ:関係詞(1)関係代名詞
14	A myth about escaping from hell 文法のテーマ:関係詞(1)関係副詞
15	後半のまとめ
16	全体のまとめ(定期試験を含む)
キーワード	文法/Listening/Speaking/Reading/Writing/Vocabulary
教科書・教材・参考書	Learn and Study English: How to take Notes (Asahi Press)
成績評価の方法・基準等	○定期試験50%、中間試験30%、小試験10%、授業への姿勢(予習・発言・質問)10%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110560001059	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	中藤 泉		
授業担当教員名(科目責任者)	中藤 泉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中藤 泉		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	授業のねらい: 知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習のデザイン能力を育てる。③ レポートや口頭によるプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を知る。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的で双方向的な学習形態をとるが、具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッション(教養セミナーに対する積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する (詳細は各クラス担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。そのため、知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、グループ作りに役立てることも狙いとしている		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110560001060	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	成田 真樹子		
授業担当教員名(科目責任者)	成田 真樹子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	成田 真樹子		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	授業のねらい: 知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習のデザイン能力を育てる。③ レポートや口頭によるプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を知る。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的で双方向的な学習形態をとるが、具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッション(教養セミナーに対する積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する (詳細は各クラス担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。そのため、知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、グループ作りに役立てることも狙いとしている		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

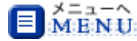
タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110560001061	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー		
編集担当教員	山口 純哉		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 純哉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 純哉		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスマワー			
授業のねらい	授業のねらい: 知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業方法(学習指導法)	1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習のデザイン能力を育てる。③ レポートや口頭によるプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を知る。		
授業内容	単位は15週で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的で双方向的な学習形態をとるが、具体的な実施方法については各クラス担当教員が決める		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による		
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッション(教養セミナーに対する積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する (詳細は各クラス担当教員の指示による)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ	大学における自主的な学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。そのため、知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、グループ作りに役立てることも狙いとしている		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110561001050	科目番号	05610010
授業科目名	●情報処理入門		
編集担当教員	鈴木 斉		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 斉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 斉		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室	[経]本館MS1		
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	sigh@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館 631		
担当教員TEL	095-820-6372		
担当教員オフィスアワー	講義時間終了後、および、sigh@nagasaki-u.ac.jp にて受け付けています。		
授業のねらい	コンピュータの操作を伴う演習を通し、機器の基本的な動作原理や特性について学習し、コンピュータの必要性の理解、および、専門課程での機器使用に対する 準備を行う。		
授業方法(学習指導法)	講義スタイルは第1回では座学、2～10回は演習を軸にコンピュータの基礎的な使い方の学習、第11回以降ではプログラミングの基礎的な考え方を通して 情報処理技術の応用方法について学習します。		
授業到達目標	1) コンピュータを使用しレポートの作成、発表、および、提出が行えるようになる。 2) コンピュータの基本的な動作原理を説明できるようになる。 3) 情報倫理を学ぶことで、出来ることと実行しても良いこととの区別・判断をつけられるようになる。		
授業内容	第1回、および、14回の授業で情報倫理について学習、および、今までに習得した知識の整理を行い、第2回～10回ではコンピュータの基本的な操作方法の 習熟が目的となります。 第11回以降の回ではコンピュータの動作原理や情報処理が可能となる原理について理解を深め、今後の専門課程での講義を受講する際にコンピュータを効率的に使うための方法について学びます。 第16回の週に定期試験を行います。		
	回	内容	
	1	ガイダンス(授業方法の説明)、セキュリティと情報倫理について学習します。	
	2	日本語入力、文書入力、電子メールの利用方法について演習を交えて学習します。	
	3	Webによる情報収集の方法、電子メールの利用方法について演習を交えて学習します。	
	4	Wordの使い方1(文書編集・レイアウト変更)について演習を交えて学習します。	
	5	Wordの使い方2(文書編集・レイアウト変更・図表作成)について演習を交えて学習します。	
	6	Excelの使い方1(基本操作・各種計算)について演習を交えて学習します。	
	7	Excelの使い方2(関数・グラフ作成)について演習を交えて学習します。	
	8	PowerPointの使い方1(基本操作・画像加工)について演習を交えて学習します。	
	9	PowerPointの使い方2(アニメーション・プレゼンテーション)について演習を交えて学習します。	
	10	PowerPointの使い方3(発表練習)について演習を交えて学習します。	
	11	情報科学の進歩、および、コンピュータ発達の歴史について学習します。	
12	コンピュータ内の情報の表現方法、アルゴリズム、プログラミングについて学習します。		

	13	2進数と論理演算、ハードウェア(論理回路の基本)について学習します。
	14	2進数での計算方法について演習を交えて学習します。
	15	情報化社会の課題、情報セキュリティの観点から情報倫理について学習します。
	16	授業の総括(試験を含む)
キーワード	コンピュータ操作、ソフトウェア(Word, Excel, PowerPoint)、情報倫理	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しません。参考書は講義中に適宜紹介します。	
成績評価の方法・基準等	定期試験40%(コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します)、 演習課題50%(機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します)、 授業に対する参加状況10%(作業指示に従わない場合や演習の妨害行為等を減点対象とします)	
受講要件(履修条件)	特にありません。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	情報メディア基盤センターの端末を活用出来るようになる。また、専門課程での学習に役立てられるようコンピュータ関連の技術的な基礎、および、原理の概要を習得する。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)	特にありませんが、コンピュータの操作に慣れていない場合は、毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間をとることが望まれます。	





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金7
開講期間			
必修選択		単位数	
時間割コード	20110562020050	科目番号	05620200
授業科目名	●健康・スポーツ科学		
編集担当教員	中垣内 真樹		
授業担当教員名(科目責任者)	中垣内 真樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中垣内 真樹,管原 正志,西澤 昭,山内 正毅,畑 孝幸,日高 正博,田井村 明博,林田 雅希,山崎 浩則,田山 淳,玉井 慎美,六反田 賢,宮原 春美		
科目分類			
対象年次		講義形態	講義科目
教室	[経]新館101講義室		
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース		
担当教員Eメールアドレス	gaichi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部棟4F中垣内研究室		
担当教員TEL	095-819-2089		
担当教員オフィスアワー	月、火曜日 12:00~12:50、16:00~17:00		
授業のねらい	健康や身体運動に関する身体的、生理的特性、またはその社会的側面などについて理解を深め、実生活で役立つ知識の獲得をねらいとする。		
授業方法(学習指導法)	授業で配布する資料を用いて健康や身体運動に関する基礎知識を講義形式で説明する。適時、身近なデータを用いた計算、分析、各自のライフスタイルなどの振り返りなどの演習もおこない実生活に役立つ知識も提供する。		
授業到達目標	生活習慣に関連する身体的・精神的疾病の基礎を説明できるようにする。生活習慣と健康、身体運動と健康の関連性を説明できるようにする。個々の生活習慣を振り返り、生活習慣を少しでも改善できるようにする。		
授業内容	以下のテーマに従って健康や身体運動に関する身体的、生理的徳用またはその社会的側面などについて理解を深める。		
	回	内容	
	1	4月8日:中垣内真樹;運動と健康	
	2	4月15日:管原正志;スポーツ活動と熱障害	
	3	4月22日:田井村明博;運動とエネルギー、運動と筋肉	
	4	5月6日:山内正毅;運動学習の心理学	
	5	5月13日:畑孝幸;スポーツと健康の関係の考察	
	6	5月20日:日高正博;スポーツの楽しみ方の工夫	
	7	5月27日:西澤 昭;リラクゼーションの方法	
	8	6月3日:山崎浩則;青年期に健康を考える	
	9	6月10日:山崎浩則;生活習慣病(1)	
	10	6月17日:玉井慎美;生活習慣病(2)	
	11	6月24日:林田雅希;心の健康(1)	
	12	7月1日:田山淳;心の健康(2)	
	13	7月8日:六反田賢;歯と歯ぐきの健康	
	14	7月15日:宮原春美;青年期の性	
15	7月22日:中垣内真樹;総括		

	16
キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。 参考書: 学生と健康 (編) 国立大学等保健管理施設協議会 南江堂
成績評価の方法・基準等	レポートまたは小テストの合計100%。毎回のテーマに関するレポートを総合して評価する。各週のレポートあるいは小テストは、10点満点で評価し、15回の平均で評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育(夜間主)**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金6																								
開講期間																											
必修選択		単位数																									
時間割コード	20110566001050	科目番号	05660010																								
授業科目名	●人間と文化(生命倫理学の諸問題)																										
編集担当教員	江本 待子																										
授業担当教員名(科目責任者)	江本 待子																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	江本 待子																										
科目分類																											
対象年次		講義形態	講義科目																								
教室	[経]新館101講義室																										
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース																										
担当教員Eメールアドレス	kyuemoto@yahoo.co.jp																										
担当教員研究室	非常勤講師控室																										
担当教員TEL																											
担当教員オフィスアワー	講義の行なわれる日(後期の毎週金曜日)6時限目開始前、非常勤講師室にて																										
授業のねらい	生命倫理学の基礎知識を修得する。また、生命倫理学の諸問題を自分自身の問題として引き受けながら考えることで、自分自身の“当り前”を一步でも半歩でも突き崩し、あらためて自分自身の価値観や行為の基準を見つめなおす。更に、医療の場面に限らない現実の日常生活の中で主体的に生きる力を身につける。																										
授業方法(学習指導法)	基本は講義形式。毎講義ショート・ライティングを行い、講義内容の理解の確認をはかる。また、体験学習的なエクササイズ(思考トレーニング)も取り入れる。																										
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理学に関わる諸問題を、講義で学習した知識をもとに検討することができる。 ・自分自身の価値観や行為の基準をあらためて問い、自分自身を見つめなおすことができる。 ・現実の諸問題と自分との関係を捉え、そこで自分がどう選択し行為するのか自分の言葉で語る事ができる。 																										
授業内容	<p>自然科学、特に医学領域の進歩が目覚ましい近年、新しい医療技術が臨床応用されている。それに伴い生命に関する倫理的諸問題が持ち上がっている。本講義では、生命倫理学の基本的諸知識を学びながら、具体的な生命倫理学の諸問題(例えば、人工妊娠中絶、脳死、臓器移植、尊厳死、安楽死、インフォームド・コンセントといった問題)を思考トレーニングによって考察する。また、その考察を通して、あらためて自分自身の価値観や行為の基準を見つめなおし、自分自身の主体的意見を表明できる主体性を身につけることができる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10月07日 講義概説:生命倫理学の誕生と展開を知る</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10月14日 生命への技術介入:生殖医療の現状とその見られる倫理的諸問題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10月21日 生を絶つことへの技術介入:人工妊娠中絶と殺すことの正当性</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10月28日 生をめぐる自己決定権:母親の自己決定権と生命の質(QOL)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>11月04日 死への技術介入:脳死の定義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11月11日 脳死と臓器移植との関係:希少資源の分配の正義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11月18日 改正臓器移植法の検討:改正臓器移植法の問題点</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11月25日 自殺は許されるか?:安楽死の賛否両論</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>12月02日 死の自己選択:安楽死の分類</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>12月09日 「生命の尊厳」か「生命の質」か:さまざまな安楽死の事例の検討</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12月16日 再び死の自己選択:安楽死と尊厳死の違い</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	10月07日 講義概説:生命倫理学の誕生と展開を知る	2	10月14日 生命への技術介入:生殖医療の現状とその見られる倫理的諸問題	3	10月21日 生を絶つことへの技術介入:人工妊娠中絶と殺すことの正当性	4	10月28日 生をめぐる自己決定権:母親の自己決定権と生命の質(QOL)	5	11月04日 死への技術介入:脳死の定義	6	11月11日 脳死と臓器移植との関係:希少資源の分配の正義	7	11月18日 改正臓器移植法の検討:改正臓器移植法の問題点	8	11月25日 自殺は許されるか?:安楽死の賛否両論	9	12月02日 死の自己選択:安楽死の分類	10	12月09日 「生命の尊厳」か「生命の質」か:さまざまな安楽死の事例の検討	11	12月16日 再び死の自己選択:安楽死と尊厳死の違い
回	内容																										
1	10月07日 講義概説:生命倫理学の誕生と展開を知る																										
2	10月14日 生命への技術介入:生殖医療の現状とその見られる倫理的諸問題																										
3	10月21日 生を絶つことへの技術介入:人工妊娠中絶と殺すことの正当性																										
4	10月28日 生をめぐる自己決定権:母親の自己決定権と生命の質(QOL)																										
5	11月04日 死への技術介入:脳死の定義																										
6	11月11日 脳死と臓器移植との関係:希少資源の分配の正義																										
7	11月18日 改正臓器移植法の検討:改正臓器移植法の問題点																										
8	11月25日 自殺は許されるか?:安楽死の賛否両論																										
9	12月02日 死の自己選択:安楽死の分類																										
10	12月09日 「生命の尊厳」か「生命の質」か:さまざまな安楽死の事例の検討																										
11	12月16日 再び死の自己選択:安楽死と尊厳死の違い																										

	12	01月06日 ターミナル・ケアと生命の質:幸福に生きるとは?
	13	01月20日 インフォームド・コンセント:パターナリズムから自己決定権へ
	14	01月27日 パターナリズムの復権:自己決定権の限界
	15	02月03日 そもそも自己決定権は優先されるべきか?:自分で選択し行為する自由について考察
	16	02月10日 定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書		参考書:今井道夫『生命倫理学入門(哲学教科書シリーズ)』産業図書、篠原駿一郎・石橋孝明編『よく生き、よく死ぬ、ための生命倫理学』ナカニシヤ出版ほか、授業中に適宜紹介する
成績評価の方法・基準等		1)授業毎におこなうショート・ライティングでの知識の修得度や主体的意見の表明度(40%) 2)定期試験(60%)
受講要件(履修条件)		質問をするなど積極的に授業に参加し、自分独自の講義ノートを作成すること
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「全学教育(夜間主)」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火6																																
開講期間																																			
必修選択		単位数																																	
時間割コード	20110566003050	科目番号	05660030																																
授業科目名	●言語と芸術(構成・デザイン)																																		
編集担当教員	織田 芳人																																		
授業担当教員名(科目責任者)	織田 芳人																																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	織田 芳人																																		
科目分類																																			
対象年次		講義形態	講義科目																																
教室	[経]新館101講義室																																		
対象学生(クラス等)																																			
担当教員Eメールアドレス	m-oda@nagasaki-u.ac.jp																																		
担当教員研究室	教育学部美術技術棟2階207番研究室																																		
担当教員TEL																																			
担当教員オフィスアワー	m-oda@nagasaki-u.ac.jp(要予約:水曜日9:20~10:20)																																		
授業のねらい	色に関する基礎知識を習得し、構成・デザインにおける美しさ・楽しさという観点を踏まえて、紙という素材を利用した基礎的な造形表現の方法を習得することをねらいとする。																																		
授業方法(学習指導法)	資料提示によって学習すべき知識や造形作品の制作方法を理解した上で、実際の素材(トーンカラー、方眼カードフォルム)を使用して、知識の確認および制作を行う。																																		
授業到達目標	色に関する基礎的な説明ができ、構成・デザインにおける美しさ・楽しさという観点を踏まえた基礎的な造形表現ができる。																																		
授業内容	<p>構成は美術・デザインに共通する色や形の造形要素を掘り下げることによって、造形の原理を追求する分野である。またデザインは、ものの使いやすさ、美しさ、楽しさを考えて生活に役立つ造形品をつくり出していく活動である。そこで本授業では、色、平面構成、立体構成・デザインに関する知識と、それらを活かした基礎的な造形表現を学ぶ。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4月12日 デザインの話、授業の概略および必要な道具類の説明</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4月19日 色・補色残像の話、色相環の制作と提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4月26日 対比の話、対比例の制作と提出</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5月10日 色の調和・配色の話、配色例の制作と提出</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5月17日 平面構成の話、「並べる」操作による平面構成の制作(1/2)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5月24日 「並べる」操作による平面構成の制作(2/2)と提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5月31日 「切る+折り返す」操作による平面構成の制作と提出</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6月7日 「切る+滑らせる」操作による平面構成の制作(1/2)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>6月14日 「切る+滑らせる」操作による平面構成の制作(2/2)と提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>6月21日 立方体の展開図の話、立方体の変った展開図の制作(1/2)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>6月28日 立方体の変った展開図の制作(2/2)と提出</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>7月5日 飛び出すカードの話、飛び出すカードの制作(1/2)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>7月12日 飛び出すカードの制作(2/2)と提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>7月19日 書体の話、アルファベットの制作</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>7月26日 アルファベットの提出、レポート提出および筆記小試験</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	4月12日 デザインの話、授業の概略および必要な道具類の説明	2	4月19日 色・補色残像の話、色相環の制作と提出	3	4月26日 対比の話、対比例の制作と提出	4	5月10日 色の調和・配色の話、配色例の制作と提出	5	5月17日 平面構成の話、「並べる」操作による平面構成の制作(1/2)	6	5月24日 「並べる」操作による平面構成の制作(2/2)と提出	7	5月31日 「切る+折り返す」操作による平面構成の制作と提出	8	6月7日 「切る+滑らせる」操作による平面構成の制作(1/2)	9	6月14日 「切る+滑らせる」操作による平面構成の制作(2/2)と提出	10	6月21日 立方体の展開図の話、立方体の変った展開図の制作(1/2)	11	6月28日 立方体の変った展開図の制作(2/2)と提出	12	7月5日 飛び出すカードの話、飛び出すカードの制作(1/2)	13	7月12日 飛び出すカードの制作(2/2)と提出	14	7月19日 書体の話、アルファベットの制作	15	7月26日 アルファベットの提出、レポート提出および筆記小試験
回	内容																																		
1	4月12日 デザインの話、授業の概略および必要な道具類の説明																																		
2	4月19日 色・補色残像の話、色相環の制作と提出																																		
3	4月26日 対比の話、対比例の制作と提出																																		
4	5月10日 色の調和・配色の話、配色例の制作と提出																																		
5	5月17日 平面構成の話、「並べる」操作による平面構成の制作(1/2)																																		
6	5月24日 「並べる」操作による平面構成の制作(2/2)と提出																																		
7	5月31日 「切る+折り返す」操作による平面構成の制作と提出																																		
8	6月7日 「切る+滑らせる」操作による平面構成の制作(1/2)																																		
9	6月14日 「切る+滑らせる」操作による平面構成の制作(2/2)と提出																																		
10	6月21日 立方体の展開図の話、立方体の変った展開図の制作(1/2)																																		
11	6月28日 立方体の変った展開図の制作(2/2)と提出																																		
12	7月5日 飛び出すカードの話、飛び出すカードの制作(1/2)																																		
13	7月12日 飛び出すカードの制作(2/2)と提出																																		
14	7月19日 書体の話、アルファベットの制作																																		
15	7月26日 アルファベットの提出、レポート提出および筆記小試験																																		

	16
キーワード	
教科書・教材・参考書	トータルカラー(配色体系に基づく色紙) 方眼カードフォルム(片面方眼付の色工作紙)
成績評価の方法・基準等	(1)全課題(造形作品等)提出40% 課題条件を満たしているか、制作作業がていねいか等を評価します。 (2)全課題についてのレポート提出30% ワープロソフトを使用し、全課題の写真画像を挿入(プリント貼付でも可)して、各課題に関するコメントを記したものを。 (3)筆記小試験20% (4)授業への参加態度10% 授業へ積極的に参加したかを評価します。
受講要件(履修条件)	実技を伴うので、受講者を40名までとします。(受講希望者が多い場合は抽選にします。) 第1回に道具類の説明をしますので、第2回から道具類を用意して受講してください。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

